

同志社大学新島塾

Neesima School of Leadership Training

入塾の手引き



「同志社大学設立の旨意」(抜粋)

…(同志社の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず、其徳性を涵養し、其品行を高尚ならしめ、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂良心を手腕に運用するの人物を出さん事を勉めたりき。而して斯くの如き教育は、決して一方に偏したる智育にて達し得可き者に非ず。唯だ上帝を信じ、真理を愛し、人情を敦くする基督教主義の道徳に存することを信じ、基督教主義を以て徳育の基本と為せり…

…人民の手に拠って設立する大学の、実に大なる感化を国民に及ぼすことを信ず、其生徒の独自一己の氣象を發揮し、自治自立の人民を養成するに至っては、是れ私立大学特性の長所たるを信ぜずんば非ず…

…一国を維持するは、決して二、三英雄の力に非ず。實に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざる可からず。是等の人民は一国の良心とも謂ふ可き人々なり。而して吾人は即ち此の一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す。吾人が目的とする所實に斯くの如し。

明治二十一年十一月

同志社大学発起人 新島 襄

I . MESSAGE

同志社大学は、1875年の同志社英学校開校以来、「志」のある学生を受け入れ、キリスト教主義教育を徳育の基本とし、良心を手腕に運用しながら自らの力で人生を切り拓くたくましさを備えた自治自立の人物を養成してきました。

これからの社会は、AI や IoT などのキーワードに見られるとおり、人工知能の開発や活用といった社会構造の大きな変化が予測されています。今後、日本や世界がどのような時代を迎え、人々の生活がどう変わるのかの見通しがますます困難になってきています。

このような時代においては、幕末から明治にかけて社会のあり様が大転換した時代と同様に人生を切り拓く力を培うことが重要です。そのような意味において、明治維新の激動が冷めやらぬ時代から継承している本学の良心教育は、先行きの不透明さを持ち合わせた今日においても決して色あせない普遍性を持っています。

同志社大学では、良心教育を継承しながらも、次の時代を担う人物を養成するための新しい展開として、「同志社大学新島塾」（以下「新島塾」。）を開校いたしました。新島塾では、学生諸君の意欲と能力を在学中に可能な限り伸ばし、社会の様々な分野で活躍する有為な人物を輩出することを目的としています。そして、それぞれの学問分野の専門性を身につけるだけにとどまらず、リーダーシップとフォロアーシップを兼ね備えた人物の養成を目指しています。

時代が移り変わろうとも、人に寄り添って真摯に意見を汲み取り、他者や組織を最善の方向に導くことができる人物、そして全体を見渡すことができる優れた市民は、平和で豊かな社会を築く上で欠かせない存在です。

新島塾のプログラムは、いずれも骨のある熱い取組になるはずです。塾生諸君が時間・空間を共有することにより、互いに切磋琢磨できるものと大いに期待しています。

同志社大学新島塾 塾長
(同志社大学 学長)

松 岡 敬

II. 新島塾とは

■人物養成の指針（各プログラム実施のねらい）

- ・学生時代の早い段階で、課題解決の「解」は1つではなく、複合的視点で考察し、物事の本質を見極める力が不可欠であることを知る。
- ・最善の方向に導くための「解」を見出すには、所属学部の専門領域を超えた幅広い知識や基礎学力の重要性を認識し、教養を高める。
- ・自身の潜在力を顕在化させるには、日々の地道な努力が必要であることを知り、強い「志」や生涯を通して学び続ける姿勢といったリーダーの素養を獲得する。
- ・自身が担うべき役割を的確に判断し、様々な意見を汲み取りながら他者や組織を主体的に最善の方向に導くことができる人物に成長する土台を形成する。
- ・新島塾修了後は、大学の様々な活動の中でリーダーシップを発揮し、他の学生と学びの価値や「志」を共有する。

■入塾対象等

入塾学年	本学学部2年次生（出願・選考時は学部1年次生）
入塾期間	2年間（学部2年次及び3年次）
定員	25名（1学年） *入塾資格者が5名未満の場合、当該年度の募集は停止します。
費用	原則無料 必修プログラムの課題図書費、合宿の宿泊費及び食事代は無料です。ただし、以下の費用は各自でご負担いただきます。 ・必修プログラムにおける大学キャンパスと同志社びわこリトリートセンターへの移動交通費 ・選択必修及び選択プログラムにおいて費用負担が生じる場合

■修了証

2年間の入塾期間を終え、修了要件を満たした塾生には、学長（塾長）から、「同志社大学新島塾修了証」を授与します。

■特徴

POINT1：新島塾独自のプログラムが受講出来ます！

塾生しか学ぶことが出来ないプログラムを提供します。少人数で講義を受け、レポート作成や討論を行い、切磋琢磨しながら学びます。

POINT2：潜在力の顕在化に向けた基礎トレーニングです！

学びに対する意欲の高い学生の能力をより伸ばさせるため、厳しい指導の下、多くの課題をこなし、精神的にも負荷がかかる内容です。

POINT3：各界のリーダーから直接学ぶことが出来ます！

「リーダーに学ぶ徳力の涵養」（必修プログラム）では、各界のリーダーを招聘し、その思考や規範を直接学びます。

■必修プログラム講師（敬称略、順不同）

「読書から始まる知の探究」

[春期：5月～6月]	
新 茂之	文学部教授
竹田 宗継	グローバル・コミュニケーション学部准教授
[秋期：10月～12月]	
林田 明	理工学部教授
伊藤 利明	生命医科学部教授
[冬期：1月～3月]	
小山 隆	社会学部教授
服部 篤子	政策学部教授
塾生が検討	塾生で取り上げたいテーマを検討し、塾生自らが当該分野を専門とする本学専任教員に講師を依頼する。

「合宿で鍛える知的基礎体力」

松岡 敬	学長
佐藤 優	神学部客員教授、作家、元外交官

※その他本学教員数名が担当予定

「リーダーに学ぶ徳力の涵養」

河本 宏子	株式会社 ANA 総合研究所代表取締役副社長 三井住友トラストホールディングス株式会社社外取締役 株式会社ルネサンス社外取締役
竹田 宗継	グローバル・コミュニケーション学部准教授

*必修プログラムでは、0期生の学生がチューターとして塾生を指導、サポートします。

Ⅲ. プログラム

新島塾では、「必修」「選択必修」「選択」の3つのグループで構成するプログラムを通して人物養成の指針で掲げた資質や能力を身につけ、それらを統合的に活用して発揮する力を養います。

■必修

知識や技法の伝達だけではなく、人間的信頼関係を構築する同志社大学の教育的伝統に基づき、「書を読み、友人や先生と語り、仲間と協働する価値を学ぶ」をコンセプトに据えた新島塾オリジナルのプログラムで編成しています。

読書から始まる知の探究

春期、秋期、冬期に課題図書を読み、あらかじめ指定された読書後の活動（書評の執筆、課題図書のテーマに関するディベートやフィールドワーク等）を通して取り上げられる問題を考察、探究し、幅広い教養や論理的思考力の獲得、社会的視野の拡大と意欲の醸成、豊かな感性を育みます。

なお、2年次生の春期は、精読のやり方等の技法の習得が中心となります。また、春期の1セッションは、「リーダーに学ぶ徳力の涵養」の事前学習を兼ねます。

合宿で鍛える知的基礎体力

日常生活から離れて塾生や講師と時間・空間を共有して語り、仲間と協働する価値を学ぶことに集中します。事前に合宿のセッションテーマに関連する課題図書を読み込み、合宿中は担当教員による講義の受講と確認小テストを繰り返し、事後レポートの作成や討論を行って、専門分野に留まらない学知の必要性を思い知るとともに、複雑な社会情勢を読み解くための基礎力を培います。

リーダーに学ぶ徳力の涵養

各界のリーダーを招いてあらかじめ設定したテーマに関して対話・討論し、人生の岐路となった経験、リーダーとして下した重大な決断、対面した危機や困難をどのように克服して乗り越えたか等を知り、その思考や規範を学び、ロールモデルを発見します。対話・討論に臨むにあたっては、事前に講師やテーマに関する調査を行なったうえで、具体的な質疑内容を検討します。

■選択必修

同志社大学では、所属学部の専門科目のほか、学問的知識の教授に留まらない人格形成にも大いに資する授業科目を数多く提供しています。

選択必修は、正課授業のうち、同志社大学の特色である全学共通教養教育科目を中心に編成しています。

同志社建学の精神やキリスト教について学ぶ科目や、日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ科目等の履修を通して、外国語によるコミュニケーション能力を鍛えるとともに、異文化及び日本文化、世界の諸相及び諸課題への理解を深めます。

■ 選択

同志社大学では、人格形成に資する多種多様な課外の取組を提供しています。選択は、大学が提供する課外の取組のうち、本学の人物養成に即した多くの要素が存在し、他者に寄り添って利害を離れて協働する取組を中心に編成しています。自治自立の精神を涵養する本学の特色ある取組に参加し、他学部生や外国人留学生、地域社会、教職員との交流を通して、傾聴力、包容力、コミュニケーション能力、チームワーク、決断力等、社会を生き抜く基礎力を培います。

■ 修了要件

以下のA～Cのすべての要件を、学部3年次を終えるまでに満たしてください。

- A. 下表①～③すべてを2年間にわたり受講のうえ課題を完遂する
- B. 下表④～⑥すべてについて、指定された科目を履修する
- C. 下表⑦～⑨のうち、いずれか1つ以上の取組に参加し、活動記録（所定用紙）を提出する

※入塾前（1年次）に選択必修の科目を履修した場合、選択の取組に参加した場合も修了要件を満たします。

※Study Abroad やサマープログラム等で新島塾の必修プログラムに参加できない場合は、新島塾運営委員会が個別判断し、柔軟に対応いたします。

必修	<ul style="list-style-type: none"> ①「読書から始まる知の探究」 ②「合宿で鍛える知的基礎体力」 ③「リーダーに学ぶ徳力の涵養」
選択必修	<ul style="list-style-type: none"> ④全学共通教養教育科目の「同志社科目群」から1科目以上 ⑤全学共通教養教育科目の「クリエイティブ・ジャパン科目」（京都科目、クールジャパン科目、クリエイティブ・ジャパン科目、外国人留学生とともに学ぶ科目）から1科目以上 ⑥「グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目」から1科目以上 又は「EU キャンパスプログラム」、全学共通教養教育科目の「外国語教育科目」のうち留学関連科目、学部で実施している Study Abroad や海外インターンシップ等の正課科目から1科目以上
選択	<ul style="list-style-type: none"> ⑦学生支援センター課外プログラムのうち、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 函館キャンプ ・ 世界学生環境サミット ・ チャレンジドキャンプ：障がい体験プログラム ・ テイラーズ大学国際インターンシッププログラム学生バディ ・ 新入生アシスタント：ぴあアドバイザープログラム ⑧Doshisha Spirit Tour ⑨学生スタッフのうち、 <ul style="list-style-type: none"> ・ ARCO（ボランティア支援室学生スタッフ） ・ 障がい学生支援室サポートスタッフ ・ 留学生ぴあサポート制度ぴあサポーター ・ SIED（Student Staff for Intercultural Events at Doshisha）学生スタッフ ・ 同志社クローバー祭実行スタッフ ・ キリスト教文化センター学生スタッフ

■新島塾第1期生のロードマップ

[2019年度]

	必修 ^{※1}	選択必修 ^{※2}	選択 ^{※2}
3月下旬	オリエンテーション		
3月下旬～4月初旬		先行登録 ^{※3}	
4月上旬		履修登録	参加登録
4月～6月	読書から始まる知の探究（春期） ・読書の技法の習得 ・事前課題（リーダーに学ぶ徳力の涵養）		
7月	ミーティング		
7月～	事前課題（合宿で鍛える知的基礎体力）		
9月	合宿で鍛える知的基礎体力		
10月又は11月	リーダーに学ぶ徳力の涵養		
10月～12月	読書から始まる知の探究（秋期）		
1月～2月	読書から始まる知の探究（冬期）		

[2020年度]

	必修 ^{※1}	選択必修 ^{※2}	選択 ^{※2}
3月下旬	フォローアップミーティング		
3月下旬～4月初旬		先行登録 ^{※3}	
4月上旬		履修登録	参加登録
5月～6月	読書から始まる知の探究（春期）		
7月	ミーティング		
7月～	事前課題（合宿で鍛える知的基礎体力）		
9月	合宿で鍛える知的基礎体力		
10月又は11月	リーダーに学ぶ徳力の涵養		
10月～12月	読書から始まる知の探究（秋期）		
1月～2月	読書から始まる知の探究（冬期）		
3月下旬	修了証授与式		

- ※1 必修プログラムには、2年次と3年次にわたり必ず参加いただきます。履修や課外活動の計画にあたっては、必修プログラムのスケジュールに留意ください。
- ※2 前述の修了要件は、学部3年次を終えるまでに満たせば結構です。2年次と3年次いずれの学年で、選択必修の科目を履修するか、また、選択の取組に参加するかは、各自で計画してください。両学年にわたり履修・参加いただいて結構です。
- ※3 先行登録が必要な科目であるかは、所属学部の登録要領等で確認してください。

■必修プログラム実施内容

1. 読書から始まる知の探究

[進め方]

○各担当教員が指定する課題図書を読み、あらかじめ提示されている様々な活動に取り組みます。

○各セッションの内容は、以下の要領で提示のうえ課題図書をお渡しします。

1) 春期

入塾オリエンテーション（2019年3月25日（月）開催）でお伝えします。

※春期セッションのうち、新 茂之 文学部教授担当セッションの内容は、あらかじめ下記にお示ししています。

2) 秋期

「合宿で鍛える知的基礎体力」（2019年9月7日（土）～10日（火）開催）でお伝えします。

3) 冬期

担当者が決まっている2セッションの内容は、「リーダーに学ぶ徳力の涵養」（2019年10月又は11月に開催）でお伝えします。

※セッションのうち1つは、塾生で取り上げたいテーマを検討し、塾生自らが当該分野を専門とする本学専任教員に講師を依頼したうえで、担当講師から課題図書を提示いただく仕組みとしています。

詳細は、2019年7月に開催のミーディングでお伝えします。

[春期の1セッションの課題図書及び活動]

担当教員	新 茂之	所属	文学部哲学科
課題図書	『「型」を学ぼう –レポートの作成–』		
図書情報	新茂之・吉川杉生著、みらい、2015年、ISBN-13：978-4860153601		
活動期間	2019年4月6日（土）～2019年6月30日（日）		
活動のねらい	わたくしたちの知識の源泉は、現代であっても、文字である。わたくしたちは、インターネットを通じて、いろいろな情報を取得している。確かに、そこには、画像とか動画とかといった視覚的な情報がある。音声もある。しかしながら、多くの場合、わたくしたちは、文字に依って情報を理解している。そのなかでも、安定した情報を提供してくれているのは、書物である。書物は、いろいろなひとの目と手が入ってようやく完成する。しつかりとした知の探究は、そのような書物を読むこと、すなわち、読書から始まるのである。		

活動の概要	<p>春期では、みずからの関心に基づいて本を選び、その読解を通じて、みずからの考えをレポートにまとめてみたい。春期の教科書として、課題図書である『「型」を学ぼう——レポートの作成——』（以下、「教科書」という）を用いる。これは、演習の形式を採用しており、それが指示する作業に一つ一つ取りくんでいけば、1600字のレポートを作成できる。</p> <p>受講生は、レポートの主題をみずから選ばなければならない。そのために、教科書の作業を通じて、みずからの興味に従って新書を選び、そのなかから、レポートの課題を決める。そのうえで、幅の広い知識を獲得するために、レポートの主題に関連した本を2冊選ぶ。それらをもとにして、教科書の作業を積みあげていきながら、レポートの内容を充実させていく。教科書の示す作業を順番にこなしていけば、レポートは自動的にしあがる。各自で作業を進めていけるように、教科書を編成している。</p> <p>活動の日程は、つぎのようになる。</p> <p>(1) 2019年3月25日(月)の入塾オリエンテーションのさいに、春期の活動の概要を説明する。</p> <p>(2) 塾生は、2019年4月6日(土)(午前の部(今出川キャンパス)、午後の部(京田辺キャンパス))に、いずれかの授業に出席する(1コマ90分×2)。授業では、教科書をどのように使いどのように作業を進めていくのか、活動の具体的な内容を实际的に解説する。</p> <p>(3) 塾生は、授業までにレポートの主題を決めるための新書1冊を各自で選び、選んだ書籍情報を4月3日(水)までにE-Mailで新島塾専用アカウント(ji-njyuk@mail.doshisha.ac.jp)に連絡する。新書は、4月6日(土)の授業で配付する。</p> <p>(4) 4月6日(土)の授業を受けてからは、各自で、教科書を読みながら、教科書の指定する課題を順番に遂行していく。担当者の指示に従って、その課題を電子媒体にてメールで担当者に提出する。担当者は、それを添削し、その結果を電子媒体にてメールで返却する。受講者は、添削の内容の理解に努め、担当者の指示に従って、つぎの課題に移行する。随時、メールにて質問を受けつける。</p> <p>(5) このように担当者とのメールでのやりとりを通して、受講生は、レポートを完成させる。その内容を2019年6月30日(日)の発表会(終日(今出川キャンパスのみ、あるいは、京田辺キャンパスのみ)、分科会方式)で報告する。</p>
-------	---

2. 合宿で鍛える知的基礎体力

[期 間]

2019年9月7日（土）～9月10日（火） 3泊4日

[会 場]

同志社びわこリトリートセンター

[合宿の目的]

この合宿では、塾生が社会を中心的に支える世代となり、様々な分野で指導的立場におかれているであろう2040年頃の時代でも通用する普遍的な学力は何かを知り、それをいかに獲得すればよいかを学びます。

[課題図書と実施要領]

1) 課題図書

ユヴァル・ノア・ハラリ 著、柴田裕之 訳、河出書房新社、2018年

①『ホモ・デウス テクノロジーとサイエンスの未来 上』ISBN-13 : 978-4309227375

②『ホモ・デウス テクノロジーとサイエンスの未来 下』ISBN-13 : 978-4309227368

2) 実施要領

合宿は、課題図書の内容からセッションテーマを設定したうえで、次頁の進行を予定しています。

※2019年7月に開催のミーティングで、セッションテーマ及び確定版のタイムテーブルをお知らせし、課題図書をお渡しします。

※合宿当日までに課題図書を精読することが事前課題となります。

[セッション等の進め方]

1) 対談・討論

松岡学長と佐藤客員教授の対談を聴講し、その内容について講師と受講生との間で討論します。

2) セッションA及びB

各テーマに関しての講義を受け、質疑応答や確認の小テストを繰り返します。

3) レポート作成A及びB

セッションAとBに関するレポートを各講師からの指示に沿って作成します。

4) 発表・討論A及びB

セッションAとBに関するレポートの発表とその内容を踏まえた討論を行い、講師からの講評を得て、セッションを振り返ります。

5) 総括

講師から4日間の成果について講評を得て、合宿を振り返ります。

※祈祷会

礼拝ではありません。キリスト教主義学校である同志社大学の精神に触れ、同志社大学で学ぶ意義を考えます。

[フォローアップ]

受講者からの要望があれば、秋学期の土曜日に佐藤客員教授によるフォローアップを、今出川キャンパス又は京田辺キャンパス開催いたします。

フォローアップは参加を義務付けるものではありません。都合がつかない方や希望されない方は出席いただかなくても結構です。

[タイムテーブル (予定)]

	11:30	12:30	13:00	17:30	18:00	19:30	22:00		
9月7日 (土)	11:20 JR湖西線北小松駅改札口集合【集合時間厳守】 北小松駅から送迎バスで現地に移動	昼食		対談・討論 「いま大学で勉強するということ」 松岡学長、佐藤教授	チェック イン	夕食	懇親会 翌日予習 入浴		
9月8日 (日)	7:30 朝食	8:30	9:00 祈祷会 佐藤教授	9:30 セッションA	12:00 昼食	13:00 セッションA	18:00 夕食	19:00 レポート作成A 入浴	22:00
9月9日 (月)	7:30 朝食	8:30	9:00 振り返りA	12:00 昼食	13:00 セッションB	18:00 夕食	19:00 レポート作成B 入浴	22:00	
9月10日 (火)	7:30 朝食	8:30 チェック アウト	8:45 9:00 振り返りB	12:00 昼食	13:00 総括 佐藤教授	14:30 14:50 フロント集合【集合時間厳守】 現地から送迎バスで北小松駅に移動			

3. リーダーに学ぶ徳力の涵養「Talk Live 2019」

[内容]

1) 講師

河本 宏子 氏 (株式会社 ANA 総合研究所代表取締役副社長)

<河本氏ご略歴>

京都府出身。1979 年本学文学部卒業。同年全日本空輸株式会社に客室乗務員として入社。

1986 年に成田空港支店客室部へ異動し、国際線就航初期メンバーを務める。

1999 年に管理職 (キャビンマネージャー) に昇格後、客室本部人材開発部長、東京客室部部長、客室本部副本部長兼品質評価部部長を経て、2009 年に執行役員 / 客室本部長就任。

2013 年に取締役執行役員 / オペレーション部門副統括に就任後、常務取締役執行役員 / 女性活躍推進担当、常務取締役執行役員 / ANA ブランド客室部門統括を歴任し、2016 年に取締役、専務執行役員 / グループ女性活躍推進、東京オリンピック・パラリンピック推進本部副本部長に就任。2017 年から現職。

2) テーマ

入塾オリエンテーション (2019 年 3 月 25 日 (月) 開催) で提示します。

3) 日時・会場

2019 年 10 月又は 11 月の平日夕刻、土曜日のいずれかで開催

※入塾オリエンテーション (2019 年 3 月 25 日 (月) 開催) で提示します。

今出川キャンパス 良心館ラーニング・コモンズ [メイン会場]

京田辺キャンパス ラーネット記念図書館ラーニング・コモンズ [テレビ中継]

[進行]

講師の講演を拝聴し、その後、講演内容や事前学習の成果も踏まえて、塾生がモデレーターを介して講師とディスカッションを行ないます。

[モデレーター]

竹田 宗継 グローバル・コミュニケーション学部准教授

[事前課題]

「読書から始まる知の探究」の春期セッション (講師: 竹田宗継准教授) にて、設定テーマに関連する課題図書を読み、理解を深め、Talk Live 当日の講師への質問事項を検討、整理します。

入塾オリエンテーション (2019 年 3 月 25 日 (月) 開催) で当該セッションの内容をお伝えし、課題図書をお渡しします。

IV. 塾生（第1期生）の募集及び選考

新島塾では、それぞれの学問分野の専門性を身につけるだけにとどまらず、高い「志」を抱いて教養を深め、統合知を積極的に獲得しようとしている意欲に満ちた学生をすべての学部から募集します。

■入塾資格

以下の a～e の要件すべてを満たす者。

- a) 2019年4月1日時点で本学学部2年次生の者
*出願・選考は、本学学部1年次生時となります
- b) リーダーやリーダーシップについて強い関心を持ち、生涯を通じて自身を磨き高める意欲や社会に貢献する強い志を持つ者
- c) 新島塾のすべての活動に主体的に取り組む意志を持ち、他の学生と互いに切磋琢磨して学び、関係する人に刺激を与えられる者
- d) 新島塾のハードワークを最後までやり遂げる力がある者
- e) 英語能力や数的思考力がある者が望ましい

■入塾説明会

入塾資格を持つ入塾希望者は、下記いずれかの入塾説明会に参加してください。いずれの回も説明内容は同じです。

<第1回>

日時 : 2019年1月31日(木) 12時25分～13時
場所 : 明徳館1番教室(今出川校地) [メイン会場]
情報メディア館401教室(京田辺校地) [テレビ中継]

<第2回>

日時 : 2019年2月1日(金) 12時25分～13時
場所 : 明徳館1番教室(今出川校地) [テレビ中継]
情報メディア館401教室(京田辺校地) [メイン会場]

■出願書類及び出願方法

入塾希望者は、願書受付期間中に以下の1)～3)の全書類をE-Mailに添付のうえ新島塾専用アカウント(ji-njyuk@mail.doshisha.ac.jp)に提出してください。入塾志願票は、大学ホームページ新島塾*からダウンロードし、顔写真欄には電子画像データを貼付ください。

*大学ホームページ新島塾



https://www.doshisha.ac.jp/information/approach/neesima_school/index.html

1) 入塾志願票【所定用紙】

2) 志望理由書^{*1}

3) 英語検定^{*2}のスコアの写し(PDFデータ)

※1 A4判縦使用、本文横書き(1行40字詰め)、1枚1,200字

※2 実用英語技能検定、GTEC、IELTS、TOEIC Listening & Reading TEST、TOEFLiBT、ケンブリッジ英語検定、CASECのうちいずれか(複数提出も可)

■願書受付期間および選考日程

願書受付期間	2019年2月4日(月)～2月21日(木)17時
第1次審査結果発表	2019年2月28日(木) 13時以降
第2次審査	2019年3月18日(月)
第2次審査結果発表	2019年3月22日(金) 13時以降

■選考過程と結果発表

・審査番号通知

願書を受理した後、入塾志願票に書かれたE-Mailアドレス宛へ審査番号をお知らせします。2019年2月22日(金)の12時までに審査番号が届かない場合は、同日の17時までに学長室企画課(TEL:075-251-4680)に電話連絡ください。

・第1次審査(書類審査)

提出いただいた出願書類及び1年次春学期の成績により審査します。

・第1次審査結果発表

2019年2月28日(木)13時以降に、大学ホームページ新島塾*で第1次審査を通過した方の審査番号を発表します。

・第2次審査(面接審査)

第1次審査を通過した方は、2019年3月18日(月)に実施する面接審査に進んでいただきます。

第1次審査結果発表とあわせてお伝えする時間と場所に集合してください。

日時変更は行いません。出席できない方は、その時点で不合格となります。

面接審査では、第1次審査結果通知とあわせて提示するテーマについて、60秒のプレゼンテーションをしていただいた後、質問に回答いただきます。

・第2次審査結果発表

2019年3月22日(金)13時以降に、大学ホームページ新島塾*で入塾者の審査番号を発表します。

※大学ホームページ新島塾



https://www.doshisha.ac.jp/information/approach/neesima_school/index.html

■入塾オリエンテーション

入塾予定者(第2次審査合格者)を対象に、下記のとおりオリエンテーションを開催します。必ず出席してください。

日時 : 2019年3月25日(月) 13時～14時

場所 : 明德館1番教室(今出川校地)[メイン会場]
情報メディア館401教室(京田辺校地)[テレビ中継]

V. その他

■入塾にあたっての心構えについて

- ・塾生の潜在力を顕在化させるため、厳しいプログラムとなります。中途半端な気持ちで臨めばハードワークを乗り越えることはできません。
- ・積極的な発言がないことは謙虚なのではありません。とりわけ討論の場で何も言わなければ、存在しないものと見なされます。他者の前で間違えることは恥ではないので、積極的に発言しましょう。
- ・一方で、思いつきでの発言、押しの強さがリーダーシップではありません。客観的知識を備え、説得力をもって持論を通せるよう系統的な読書を積み重ねましょう。

■新島塾に関する事務連絡について

- ・オリエンテーション時にご提出いただく E-Mail アドレスで新島塾のメーリングリストを開設します。
- ・大学から塾生への連絡は、メーリングリストを通じて行います。
- ・配付物がある場合は、メーリングリストで連絡したうえで、所属学部の事務室窓口でお渡しするよう手配いたします。

■広報媒体への掲載について

新島塾の活動の様子（動画や写真）は、同志社大学公式ホームページや同志社大学 VISION2025 のホームページ、本学の刊行物に掲載する予定です。

また、塾生個人へのインタビュー等の記事の掲載も予定しています。個人への取材（個人が特定できる形での広報発信）は、事前に内容を説明のうえ、本人の了解を得た場合にのみ行います。あらかじめご了承ください。

■個人情報保護について

提出いただいた個人情報（住所・氏名・生年月日等）は、新島塾の運営のみの目的で利用します。その際、当該個人情報の漏洩・流出・不正利用等がないよう、必要かつ適切な管理を行います。なお、個人が特定されないように統計処理した個人情報については、大学に調査資料として利用します。あらかじめご了承ください。

■修了生への期待について

新島塾修了生には、塾の人物養成の指針に基づき、後輩塾生の活動（合宿等）のチューターを務めていただくことや、新島塾のOB・OG会活動により生涯を通じて人的ネットワークを構築のうえ自身を磨き高めるとともに、現役学生をサポートいただくことが期待されています。

【問い合わせ先】 同志社大学新島塾事務局 E-mail : ji-njyuk@mail.doshisha.ac.jp